

行雲流水

No.19 令和3年4月12日発行

「成功」の反対は「失敗」ではない

「成功」の反対は「何もしない」ことである

校長 寒河江 正人

「ミス」や「失敗」「挫折」は、誰にでもある。
私たち人間はみな、本来、「**不完全な生き物**」なのだから、当たり前のことだ。

しかし、それを自覚しない者、自覚しようとしないう者、原因や課題を究明して改善しようと努力する姿勢に欠けている者は、絶対に成長しない。

「ミス」や「失敗」「挫折」は、**成長するチャンス**なのである。
「ここから這い上がって、挽回してやるぞ!!」という反骨心が湧き上がり、普段よりも頭を使うようになる**チャンス**なのに、それを活かさないという「手」はないではないか。

ミスや失敗を分析・考察すれば、些細なことにも気付くので、それを**工夫・改善**するために「**変化**」し、その「**変化**」こそが大きな「**成長・進歩**」につながるのだ。

その**工夫・改善**に努力しようとする「**姿勢**」によって、「**調整・修正する能力**」が高まり、同じ**ミスや失敗**を繰り返さないように「**成長・進歩**」するのだ。

工夫・改善するために、「あれこれ」と**分析・考察**する「**感じようとする力**」を身につける。
私は、その「**姿勢**」こそが最も大切だと考えている。

「**ミスや失敗・挫折**をしたときこそが**伸びるチャンス**だ。」
そんな意識を、「**姿勢**」を、もてるかどうか。それが、「**運命のカギ**」になる。

それが、**ミスや失敗**という「**経験**」を「**糧**」にできる者とできない者との「**分かれ道**」になるのだろう。